

◇ 松田謙吾君

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員、登壇願います。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番（松田謙吾君） 5番、松田です。このたびの26年定例会において港湾施設の現状と第3商港区の現状についてご質問いたします。19年から厳しい財政再建中さらに二度目の財政危機、歳入の確保、歳出の抑制を掲げ厳しい町政運営の中第3商港区は最重要の政策として引き継がれほぼ計画どおりに供用開始されております。しかし完成した港は費用対効果の観点からも大いに使わなければなりません。私は何度も申し上げていることを前置きしておきたいと思えます。質問に入ります。

(1)、日本製紙の中期計画に白老の活用はないとこう述べられております。しかし木材チップ積算を見込んで企業と協議中、協議中身について伺います。

(2)、紙の移出ピークの年度と実績。25年度実績、26年度予定量と今後の見通しについて伺います。

(3)、第3商港区利用貨物係留使用料、1万8,000トン級3日間で27万円これは前回のご答弁で申し上げております。砂の搬出が行われているようであるが2,000トン級係留使用料の実績、今後の見通しについて伺います。

(4)、港湾機能整備としての倉庫の利用状況と収支について伺います。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

[町長 戸田安彦君登壇]

○町長（戸田安彦君） 港湾施設の現状と第3商港区の現況についてのご質問であります。1項目めの日本製紙との協議の内容についてであります。日本製紙とは継続的に協議を進めてきており現下は厳しい経営状況になっていると伺っておりますが、引き続き白老港への設備投資を今後の中期経営計画へ盛り込んでもらえるよう、また第3商港区の水深11メートル岸壁を利用したRORO船での紙製品の移出や大型船舶による原材料等の移入を要請しております。

2項目めの紙の移出ピークの年度と実績、25年度実績、26年度予定量と今後の見通しについてであります。紙製品の年最大移出量は平成14年に21万8,000トンの実績がありましたが25年は3,380トンであり26年は4,200トンの移出予定となっております。今後の見通しは輸送形態が変わらなければ現状のままで推移すると思われませんが白老港からの移出を要請しております。

3項目めの2,000トン級の船舶の係留使用料と今後の見通しについてであります。2,000トン級の船舶は699総トンであり、総トン数1トン当たり24時間までごとの使用料は9円72銭で1日6,794円の使用料になります。今後の見通しですが25年度の係留施設使用料収入約991万円であり入港船舶数も順調に推移しており現状を維持するものと考えております。

4項目めの上屋の利用状況料状況と収支についてであります。利用料状況は平成22年度までは全面積使用で約2,000万円の収入があり23年度は15%減の約1,700万円、24年度、25年度は30%減の約1,400万円、26年度も30%減ですが消費税の変更により約1,440万円の収入となる見込みです。

25年度の収支は歳入が上屋使用料収入で紙製品以外の保管もあり土地貸付収入を含め約1,680万7,000円、平準化債借入が1,620万円、一般会計繰入金が約2,437万5,000円となり、歳出は事務費約306万円、公債費が元利合計で約5,432万2,000円、歳入歳出合計とも約5,738万2,000円となっております。26年

度予算は一般会計繰入金、約 2,737 万 5,000 円を含め歳入歳出合計とも約 5,897 万 5,000 円を計上しております。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

〔5 番 松田謙吾君登壇〕

○5 番（松田謙吾君） 15 年 12 月会議に山本議員、今の議長は飴谷町長就任初定例会いくなれば選挙が終わって初の定例会に白老のまちとして基本的位置づけについて質問をしております。これに当時の町長は本町の重要政策として、私の政策公約で整備を進めるのだと。選挙の後すぐこういっています。まだ 1 カ月ちょっとです。早期供用開始を図っていく、着工から 8 年後には一部供用され 11 年後 25 年には事業が完了する。町長が就任したときにこういっているのです。そしてこの見込みどおり、ほぼ予言どおりに 11 年後の 25 年にはほぼ完成した。18 年の着工から 8 年でこれも予言どおり。

そこでいろいろ聞くのですが、港湾基本構想での 351 万トンこの貨物見込みと現状、今のような数字になっているのかお聞きしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 現状の貨物を申しますと平成 25 年の貨物量が 106 万 4,236 万トンという結果が出ております。これにはまだ第 3 商港区の貨物量が入っておりません。まだ利用していないときの貨物量です。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

〔5 番 松田謙吾君登壇〕

○5 番（松田謙吾君） 106 万 4,200 トンは水産物も入っていますか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 8,071 トンの水産物が入っております。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

〔5 番 松田謙吾君登壇〕

○5 番（松田謙吾君） そうするといくらになるのでしょうか。

○議長（山本浩平君） 赤城担当港湾課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 商船貨物量でいきますと 99 万 7,749 トンでございます。水産物のほかにも窯業品といってコンクリートブロックなどがありますのでそれを除いております。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

〔5 番 松田謙吾君登壇〕

○5 番（松田謙吾君） 港湾基本構想でのチップ、石炭の岸壁に上げる量は計画どおりになっていないと思います。いくなれば基本構想が 351 万トンですから 99 万トンは計画どおりになっていない。基本構想の見直しはなされるのですか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 現状ではまだ日本製紙の利用を要請している段階ですぐ基本構想を見直すという考えはありません。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 基本構想の見直さないとすれば基本構想での貨物量は今後確保できる可能性がある、見込みがあると考えているのかどうか。

○議長(山本浩平君) 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長(赤城雅也君) 利用されるように強く要請しておりますし、また協議を進めております。

○議長(山本浩平君) 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) それではもう1点伺います。今人口の減少それから経済の停滞、それから生産活動の縮小、それから工業出荷額の減少もちろん当然します。それから製造製品が少なくもなります。私は今後室蘭と苫小牧との荷物の取り合いが間違いないと始まるのではないかと。荷物が少なくなってくるから起こり得ると思うのですが、今後白老港も含めてこのことについて考えておられますか。

○議長(山本浩平君) 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長(赤城雅也君) やはり近い間隔で港湾がありますので競争が激しくなるとは思っております。

○議長(山本浩平君) 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 競争が激しくなるのはそのとおりでと思うけれども、私は荷物の奪い合い、取り合いが始まるのではないかと懸念するのは、後からも質問するのですが今は紙製品です。これも確か11年前は21万トンぐらい出していたのです。昨年は確か3,380トンだと思います。白老の荷物だといいながら11年前から1.6%になっているのです。こういうことからいくと私は白老の荷物だと安泰としておれないと思うのです。どんどん荷物の奪い合いが始まる。白老町も室蘭の荷物を奪おうとしているわけです。苫小牧の石炭も奪おうとしている。奪うという言葉は悪いですが、うちの製品だという言い方を町長はしていたのですが、全国126ある重要港湾の中でも室蘭・苫小牧の重要港湾は今日本の重要港湾です。その間に挟まれている白老の港が今99万トン。これを今出しているわけなのです。今砂が主力なのですが砂だって地元の砂ではなく苫小牧の砂が半分以上だと思うのです。これもいずれ暗たんとしていられなくなるから私はこんな質問をしているのです。

それでは基本計画での第3商港区での経済効果これはどのようになっているのか伺いたいと思います。

○議長(山本浩平君) 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長(赤城雅也君) 白老港を利用してチップを入れたり石炭を入れたり、またRORO船での紙製品の移出ということに利用されれば経済効果が上がってくるものと思っています。ただ港湾としての使用量というのは少ない。港はお金を生むところではなくて経済を潤すところだという考えです。

○議長(山本浩平君) 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 着工前の18年3月定例会、公共バスの使用計画と企業の接点についてという質問をされております。そのときに当時の町長は港の構想では資源量のチップ、石炭、紙など貨物の利用を見込み企業とは完成後の利用についても現在協議を進めているのだと。室蘭のチップ、苫小牧の石炭は本来白老で扱うべき貨物なのだ。全部合わせると道内でも大体5番目から6番目になる。企業とさまざまな

部分の協議を進めている。こういつているのです。この言葉の答弁は8年前の18年3月から始まっているのです。

そこで協議中の協議の真意を伺いたい。協議という言葉の真意を伺いたい。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 24年度までチップヤードの基本設計を行いまして詰めた話までいったのですが、最終的なときでは地震がありまして日本製紙工場2工場が全滅してそれにお金がかかった、また今現在の経営状況も悪化しているそういうことを鑑みまして今は利用できないということですので今後の利用について要請しております。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 私が聞いているのは、協議とは寄り集まって相談することなのです。辞典にこう書いてあります。ですから何の協議をしているのか。ただ協議していると。この協議の真意です。協議とはどう捉えて協議しているのかということは今聞いているのです。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 現在でいいますと協議ではなくて要請をしているということになります。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 室蘭港のチップ、苫小牧の石炭は約50年前から白老に持ってきているのです。約50年前大昭和製紙が操業したときから。

協議というのは白老が港をつくるという考え方に立ったら、港をつくる前にチップと石炭は白老港で扱う荷物として室蘭市と苫小牧市の港湾と協議を尽くされているのかどうか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 苫小牧港、室蘭港とは協議しておりません。企業との協議だけです。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 今この港が完成して、8年前から11年後の予言までしてできて、ここから室蘭のチップと苫小牧の石炭を運ぶのだと誰と協議をしてこの第3商港区にチップと石炭を基本計画を改正して350万トン入れる、この計画は両港と関係なく仮想の中でこの量を決めたのですか。先ほどもいったように50年前からやっている両港が白老ができたからそうですねということになりますか。町長にお聞きしますが室蘭の市長、苫小牧の市長に石炭とチップあした持っていくといたら、うんというと思いますか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 自分のまちの港湾の利用状況を考えるとうんとはいわないと思っています。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 港ができてもう1年になる。それでまだチップ、石炭が1トンたりとも入っていない。紙はどんどん持っていかれている状況が今の港湾の状況だと、最重要政策といいながら、白老はチップヤード50億円かかるからといって日本製紙やめたのが現状です。室蘭も苫小牧もそれだけかけた施設が

今稼働しているのです。それを勝手に荷物を持ってきたら室蘭の施設は苫小牧の施設はどうなるのですか。だから私が町長に今聞いたのはその点なのです。それでいいと思っているのですか。できると思っていますか。持って来られると思っているのですか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 港の利用については企業が決めれば動くということで、企業がもし白老港を利用するということであれば白老で貨物の移動はできると思っています。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） そうしたら石炭は何とっているのですか。チップは企業は動かないといいました。白老は使わないと。白老はもうチップ入らないのですよね。それでは石炭は何とっているのですか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 石炭も今のところは利用できないということです。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） チップも石炭も企業は使わない。それではあの第3商港区142億8,000万円、29億4,000万円町は金をかけて、これは誰が責任持つのですか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） ですから今後の利用に向けて強く要請していますし、RORO船での紙製品の移出等を要請しています。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 要請しても日本製紙は使わないといったのです。要請してもしょうがないのではないですか。使う方が使わないというのだから。

それから苫小牧の石炭もあの港にいつから入るのですか。これは使うとっているのですか。もう港完成したのだから。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 現在はまだ利用できないということです。今後の利用に向けて要請をしています。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 完成後もう1年たった。それでは今協議とっている中身は木材チップ、石炭輸送方法の協議なのか。それから輸送コンベア、また建設に10数億かかる、この解決のための協議なのか。それから防護柵の協議なのか。この辺の協議の経過はどうなっていますか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） チップヤード等の協議は現在しておりません。今後の利用に向けての協議、要請です。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 今後の見込みはいつ頃になりますか、港はできてしまっているのです。ただずっと8年間も協議している。私は日本一の長い協議だと思うのです。延々とやっている。私はどんな協議だろうと終点がなければだめです。この協議の終点これはいつ頃だと思っているのです。

○議長(山本浩平君) 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長(赤城雅也君) 企業はやはり中期経営計画ののっとって経営をしておりますので、その中期経営計画にまず盛り込んでもらえるよう要請をしております。

○議長(山本浩平君) 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) それでは別な質問にいきます。前町長は港は私がつくりますから日本製紙につくってください、これだけは明確にいえませんが第3商港区がなかったら今の工場はなかったと思っている。工場がなくなったとき誰が責任を持つのかとこういっているのです。そして第一義には雇用も確保と税収の確保を前面に出して第3商港区を整理するのだと。第3商港区はチップ、石炭が入ってくる、紙の移出もある、工業団地、材木関係も使うのだとって企業誘致にも向かっていくとっています。港をつくる第一義ととなえてこれはかけ声倒れ、これは町民にどのように説明するのが町長に伺いたいと思います。

○議長(山本浩平君) 戸田町長。

○町長(戸田安彦君) 当時の判断としてはそういう判断をしたというふうに認識しております。

○議長(山本浩平君) 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 厳しいまちの財政、身の丈を超える大きな事業、8年の歳月をかけてせつかく港をつくって今このような議論がなされるのは大きな買い物をする前に住民に十分な説明、納得、合意形成がされていないからなのです。私はそう思っています。企業のためと港ができあがって8年も協議してチップ、石炭、紙の大型船の出入りがなく魚釣りの場になっているのです。私はだからこういう議論が始まるのだと。ですから町長はこのことをどのように考えておりますか。

○議長(山本浩平君) 戸田町長。

○町長(戸田安彦君) 今担当課長からもお話したとおり今ある港湾を利用するべく努力をするということとあります。

○議長(山本浩平君) 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 26年1月9日、日本製紙のトップは白老港を利用しないとはっきりいっています。経営の変化に合わせて今後進化しなければならないといっているのですが、長い間協議をして日本製紙の濱沖工場長がいった言葉は白老町と協議の上でこの言葉が話されたのかどうか。どのように町民はとったらいいのですか。

○議長(山本浩平君) 白崎副町長。

○副町長(白崎浩司君) 港の問題につきましては松田議員のほうも過去何回かご質問されております。そういうご質問の経過の中で今の趣旨のことについてもご答弁させてもらっていますけれども、日本製紙とは港を着工するという段階で協議させてもらっていると。8年云々といいましたけれども協議の経過として

はあその港を利用するというような計画の中でチップヤードをどうするかというような協議を当初はさせてもらっていました。それは先ほど担当課長が答弁したとおりなのです。やはり紙業界の経営が低下しているというようなことと、3年前の東日本大震災で主要工場が壊滅といいますか損害を受けたというようなことで、非常に経営が圧迫されているというようなことで新たな投資については判断はできないというようなことで、今白老港を利用してという状況にはならないと。いわれているのは今後の日本製紙さんの中期経営計画の中でこの計画を盛り込めるかどうか。これが中に入ってこなければなかなか事業は進まないというようなことですから、私どもも当初はチップヤードの建設というようなことでの協議をしましたがけれども、3年前といいますかそれ以降は中期計画に盛り込んでもらう、そして港を利用してもらうということの協議。当初は具体的にチップヤードの協議をさせてもらっていましたけれども、今はもうその段階ではなくてどういう形で港を利用してもらうかということと中期計画の中に入れてもらうという要請しているということです。当初計画を立てた状況と今の現状が大きく利用状況がかけ離れているというようなことを、前にもご質問ありましたけれども町民のほうにも説明をというようなことで広報等々で周知をさせてもらっていますし、それでよしということではなくて今後の利用に向けて、何度も答えていますけれども他の企業そういうことの利用促進のためのトップセールスといいますか、今ここまで来た港ですから今後の利用を促進するというような活動といいますか、町長もトップになって利用促進のために活動しているということが今の現状でございます。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） そうすると日本製紙との紙、石炭についての協議は一旦終わったと。今やっているのは要請なのだと。これからはまちの一方通行のポートセールス。あとは要請、お願いこう受けとめてよろしいですか。日本製紙とのチップ、石炭、紙についての協議は一旦終わったと。今後は要請なのだと、お願いなのだと。協議というのは相手があつてするものです。今度は相手がいないわけです。使わないことがはっきりして利用がはっきりしたら。今後は要請してお願いしてポートセールスしているのだとこう受けとめていいのですね。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） 先ほどちょっと重複しますがけれども日本製紙さんとは具体的なチップヤードの施設をというようなことでの協議を当初はさせてもらっていたと。今はそういう具体的な施設を云々ということではなくて港を利用してもらうということに対してのお願いをしていると。これはお願いですから当然相手があるというようなことで、日本製紙さんをお願いをしているということで相手がいないということではなくて、最初の町長の答弁でお答えしたとおり協議は継続的にやっているというような状況でございます。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 先ほどもちょっと話したのですが紙のピークが21万8,000トン、25年3万3,000トン。日本製紙とは貨物の利用方法について8年間も継続協議してきたのに紙の移出実績は今のとおりです。白老工場で生産している紙の移出量も他港に取られている。町長の執行方針、地域経済の持続的発展を目指すため産業界と連携を強化して組織的に積極的なポートセールスを取り込むと方針を述べられているが私はその姿勢が表れていない。なぜならば紙がどんどん減っているのです。23年6万4,000トンだっ

たのです。おとしです。また3万3,000トンに減ってしまっている。これでは町長が今いったようにポートセールスを一所懸命やるのだといっても、この11年間で1.6%しかになっていないのに町長の姿勢として表れていない、やっぱり目に見えないということです。町長はどう思っているのですか。どのようなポートセールスをしているのですか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 確かに現状でいうと紙製品は落ち込んでいるところでございます。ポートセールスが見えないのはあえて隠しているわけではないのですがいろいろな企業さんの紹介などをいただいているなどところでポートセールスをさせていただいているのは事実であります。その中へすぐ今発生する仕事がないものですから、先ほどの競争の話も出ましたがいろいろな港湾を使っているところから競争の中で白老港を利用させていただかなければならない条件がそろそろ、もしくは相手先に会社としての利益を上げられるような条件も整わなければならないことを考えますと、ポートセールスはそのまま引き続きやっています。がすぐ結果が出ないということに対しては現状のとおりですが、営業を続けることによって港湾を利用させていただけるというふうに思っております。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 25年度港湾貨物取扱量が先ほどいった99万トンです。このうち砂、採石が81万トン。港湾全体25年の106万トンの係留使用料990万円。先ほど991万円といたしました。維持管理費が870万円かかっているのです。差し引くと港湾全体の収入が120万円なのです。港からの収入は微々たるものなのです。しかしながら約800億円投資して上屋の倉庫も入れると約60億円の起債が残っている。25年度の起債償還6億5,000万。今私のいった数字は違いありませんか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） 係留使用料としては991万円です。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 間違いなければ、港をつくってまちが潤うものは何か。また将来潤うものは何かを町民に希望の持てる答えを町長にお聞きしたい。今いったように港湾でまちに入るお金は120万円です。そして60億円の借金があって6億5,000万円償還している。あの港は何のために港をつくって、どのように潤うためにつくったのか町長の考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） このことにつきましては港の着工といいますか、事業を決定するというか意思判断する。その中でも多分触れられていることだと思いますけれども港湾をつくるということによつての経済活動それから港を利用する企業、当初の段階ではいってみれば、大きなことをいえば工場の存続にも影響するというようなことで、港を利用する工場が企業がそのまちに存続するということは今の港の利用する収支云々だけではなくて、それに波及する経済効果それから工場の税収あるいは従業員の税収、それから従業員の経済活動等々を踏まえればそのまちの存続そのものにも大きく影響するだろうというようなことで、数字的に云々というのは手元に何もありませんけれども、まちの経済活動が活発化になるということはまちそのものが、非常に全国的にも厳しいまちの存続ですけれどもやはり白老のことを考えれば、その企業が存続



する、あるいはそういう従業員が多くいるということでの人口維持にもつながるということになるというような経済波及効果も含めてそういうような事由のこの中で着工を決断したというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） できてしまった港ですからどうのこうのいおうにも、第3商港区あれだけのできたのなら活用しなければだめなのです。マイナス 11 メーター240 メーター岸壁に大型貨物船がもちろん入っておりません。そこに2,000トンの船がたまたま砂を積みに入っています。私はしょっちゅう白老の行き帰りに見えています。そこに入る2,000トン級の船の1日の係留使用料が6,754円と先ほどいいました。たった6,754円です。6,754円といったら焼き肉食べ放題の1人前の価格です。これしかあの港の収入はないのです。ですからもう少しきちんとやらなくてはだめだといいたくて私はこういつているのです。この状況が今ここに書いてあります。入港船舶数も順調に推移して現状を維持する。こういつているから私はいいたくなるのです。確かに順調に入っているかもしれない。私は第3商港区のことをいつているのです。この第3商港区をこのような考え方でいるのであれば能天気だ、危機感が何もないと私は感じております。

先ほどもいつたのですが町長、たまにあの港に行ってみていますか。魚釣りやっている現場を見えていますか。私写真撮ってあるのです。町長これが今の港の現状です。魚釣り、みんな喜んでやっています。私は、だから町民が何と思うかと。この港をつくってまちの税金、雇用がこの目的の第一義だといつた港が今散々たる状況です。これは戸田町長の責任ではないのです。これは前町長が命がけでやつた仕事だから。しかしながら戸田町長、前町長の尻拭いばかりしていてもだめなのです。戸田町長が尻拭いしないとこの尻拭いは町民がしなければならないのです。ですからやっぱり本気でかからなければだめです。どのぐらい本気に思っていますか。

○議長（山本浩平君） 白崎副町長。

○副町長（白崎浩司君） 町長へのご質問だと思いますので最終的には町長が答弁します。何度か松田議員のほうから港のご質問をされています。きょうも前段のほうは現状といえますかそのことのご質問をされました。今後段の中でできたものをどう利用するかということが問われるのだというのが松田議員のご質問の一番重要な趣旨だといふふうに思っています。私どももそのことにつきましては過去のご質問の中で、プランの中で若干3年延ばした中で防波堤をということで静穏度を高めていきますと。そうすれば港として企業にPRするときに活用できる港だといふことでPRさせてもらっていますといふようなお話をさせていただきました。今ご指摘のとおりいかにあそこの港を当初の計画がなかなか進まないという中で他企業を含めて利用してもらおうかということが今後の私たち行政に課せられた大きな責務だといふふうに思っていますので、このことは先ほどの町長の答弁の中では具体的には今成果としてこうです、ああですといふような答弁をできるような状況ではないですけれども、ただセールスとしてはいろいろなところから情報を得た中で企業を訪問して、これについては先ほどもいつたとおり今利用している港がありますから、それでは来年からだとか再来年からだといふようなすぐの答えにはなかなかならない。そういう中では答えが数年後でも出られるように町長も含めて港の利用についてのセールスといえますか、それについては今ご指摘のとおり力を入れていきたいといふふうに思っています。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) その辺はわかって私も質問をしているのです。新規取扱貨物及び新規参入の誘致が地域経済に波及するのだと、そしてまちの発展に繋がるのだと。そのためには静穏度を向上させなければならない、安全な港にしなければならない、これは町長よくいう言葉です。早期に静穏度が上がればポートセールスや企業誘致に弾みがつき港湾の利用促進や企業進出に結びつき、さらに地域産業の競争力の確保と経済の活性化が図られるのだと。だからポートセールスを一所懸命やるのだとこれは今までの町長のお話です。静穏度の整備 29 年度完了予定を 7 年後 32 年度完成に 3 年先送りをしました。私はこの中で先送りしないでやめるべきだといったこともあります。しかしながら 3 年先送りすることに決定しました。静穏度が上がれば港が生きるのであれば当初計画どおり完成を図るべし、こういつて予算組みかえ動議を前田議員が出しました。そうであれば私もそのとおりでという思いで私と西田議員が賛成をしております。しかし議会は通しませんでした。しかしながら今国会のアベノミクスの国土強靱化基本計画、そして消費税アップの財源もあり公共事業も拡大している。まちの財政危機で 3 年間静穏度の工事を延長したがこれから国の補助金が増大した場合、当初計画どおり整備をやる考えはありませんか。

○議長(山本浩平君) 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長(赤城雅也君) 現在では財政健全化にのっとなって事業を進めていこうと思っています。

○議長(山本浩平君) 5 番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) 私が今いったのはそうではないのです。新たにアベノミクスの強靱化計画で補助金が増大したら、港が静穏度があってポートセールスがしやすいのだったらやるべきではないのかということをしているのだから、もしそういう補助金 came たらやる考えはありますかと聞いているのです。

○議長(山本浩平君) 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長(赤城雅也君) 港湾は直轄事業でありましてそういう補助金が入る事業ではございません。

○議長(山本浩平君) 戸田町長。

○町長(戸田安彦君) もしかしたらという話なので私も例え話でお話をさせていただきます。港湾を早く完成させるための補助や公金があるのでしたらこれを続けていきたいという考えはあるのかもしれませんが、今は財政健全化のプランの中で国とも協議させていただいて、まず工事を延ばしたと。今現実には第 3 商港区を大きな船で利用するところがないということでもありますので、もし何らかの形の企業が静穏度が確立できるのだったら使うと確約ができるのでしたらまた国との協議を再開して早めに工事を進めたいというふうに考えています。

○議長(山本浩平君) 5 番、松田謙吾議員。

[5番 松田謙吾君登壇]

○5番(松田謙吾君) そのことがよければ、今町長がいったようにもしものことがあれば私はやるべきだと思っているのです。

それから次にいくのですが、港湾機能整備、倉庫の利用状況について伺います。上屋の基本方針は建設費、用地造成費及び施設の耐用年数 45 年として運営するための維持管理費、光熱費を想定、全体事業で回収して経営を図るこれが基本方針なのです。そして元利も維持費も電気代も含めて 8 億 5,690 万円これを 45 年

で割った数字が約 1,900 万円なのです。これですっと払っていくのだというものを 25 年度の収支いうなれば運営費は 5,738 万円です。これに倉庫使用料 2,000 万円が 300 万円下げて 1,680 万円になっている。ここに地方債、平準化債とっているのですが 1,620 万円、それに一般繰入 2,437 万 5,000 円これを繰り入れているのですが、私はずっと建設のときからこの倉庫の建設は反対してきました。しかしながら 2、3 年前に私は賛成したのです。それは企業が約 2,000 万円では耐えきれないと。紙がどんどん減っているわけですから。企業というものはやっぱり生き物ですから倉庫代を最初決めても払えないといったらやっぱり賛成しなければならぬ。こういう思いで私は下げることに賛成したのです。それが年々 24 年、25 年は 30% にしました。約 600 万円下げています。そうするとまた一般繰入が 2,700 万円余りになっている。こういうことを繰り返してずっとこれからもいくわけです。32 年に平準化債で一旦港の経営収支を楽にするつもりなのですが、しかしその後維持管理費もずっとかかっていって、そのうち倉庫の補修も出てくる。ですからこの倉庫をつくったのも失敗とはいわないけれどもあんなに立派につくるべきものではないと私はそのために主張したのです。しかし今後 1 企業にだけ頼るのではなく一般の企業にもあそこの港を使ってもらえるような方策をやっぱり考えるべきだと思うのですがその辺の考え方はどうですか。

○議長（山本浩平君） 赤城港湾担当課長。

○港湾担当課長（赤城雅也君） ポートセールスの段階では上屋の利用も要請しておりまして、一所にポートセールスをしております。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

〔5 番 松田謙吾君登壇〕

○5 番（松田謙吾君） 赤城課長の答弁は短くてめりはりが少し足りないのですね、いやいや、それでいいのだけでも、どうもあっさりしすぎて息する暇がないのです。それはそれでいいとして最後に私の考え方と町長の考えをお聞きするのですが、木材チップ、石炭船の港湾利用のめどが立たず紙移出の減少、臨海部土地造成地の空き地化、倉庫の運営維持のため新たに地方債を発行、不足分を一般会計から繰り入れ起債残高 60 億円以上を抱え財産基金を招いている。私は港が根幹だと思っているのです。だから私はこうしつこくいつているのです。あわせて第 3 商港区の港湾を核として地域の発展、雇用、税収、将来への期待、見通しは。私は前に大義にという言葉を使いました、しかしながら前町長は第一義という言葉を使っています。現段階の当初の第一義、いうなれば税収がきて雇用がきてまちがよくなるのだということと甚だしく相違している。これは明らかなのです。この第 3 商港区の建設はまちの信頼を損ない町民を裏切ったことになりませんか。私はそう思っているのですが裏切ったことにならないようにやらなければならないのが町長のお仕事だと思うのですが、まちの信頼を損ない町民を裏切ったことにならないか。どのように考えますか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 先ほども松田議員おっしゃったように今もうほとんど完成に近い港でありますから、これから町民の負託に応えられるようにきちんと港湾を利用できる企業、また港湾をできるようにするのが私たちの仕事だと思っていますのでこれからもポートセールス等々含めて努力していきたいというふうに考えています。

○議長（山本浩平君） 5 番、松田謙吾議員。

〔5 番 松田謙吾君登壇〕

○5 番（松田謙吾君） しつこいようだけでもう 1 回聞きます。港をつくるため今の財政に与えた影響は

余りにも大きすぎると私は思っているのです。約束を守るとか守らないという次元の問題ではない。病院を建てる建てないの問題とはわけが違う。港は次代の孫子に残っていく。住民の夢を壊し、そのつけを背負い眺めて吐息だけ出ている。港をつくった大義を聞いたら高い買い物をした、よかったか悪かったかは次の時代は人達が判断するものだ。結果は未来を見なければわからないと答えている。それでは改めて何うが第一義として示されている港をつくった基本方針の考え方現況と見た場合、港をつくったのは正答だったのか。正答か正答ではないで答えてください。そして住民が納得し必要な港だったのか。住民の誰もがわかるように見解を伺いたい。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 繰り返しになりますが当時の町長の判断としては日本製紙白老工場という大きい工場が背後にあることを考えますと、先ほど副町長もるるお話していましたがトータルとしてこの港湾に向けた第一義という言葉には賛同いたしたいと思えます。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） そうしたら正答だったのですね。町長は正答だとはっきり申し上げるということですね。それでは住民がこの港を求めたわけではないのです。住民が求めるというよりも一番最初にいったように町長になって1カ月目で港をつくるのだといったから町民が求めるも求めないもないのです。それで経過してきた。今町長がこの港をつくったのは正答だということであれば私は町長が今後町民が港をつくってよかった、正答だったとそういう足跡をきちんと残してほしい。

それともう1つはチップ、石炭、紙等の大型貨物の行く末と今後の成り行き。それから人口減少に照らし合わせた白老港の将来像というか未来像このことについてお聞きして終わりたいと思えます。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 何回もお話してありますとおり今の段階では港湾の利用がないということでありませんが、いろいろな企業を北海道だけに限らず回らせていただけてまず感じることは、この白老港の水深11メートルという第3商港区がほぼ完成した、供用開始したというのがほとんどの企業が知らないということがわかりましたので、まずはPR活動も含めていろいろなところを回っていかねばならないと率直に感じてきたところであります。企業側にとっては利益が今以上に生むのであれば港湾も使う協議に入ってもいいというお話もいただいておりますので、その辺は引き続きポートセールスを行っておきたいというふうに考えております。それを1日でも早く実現するのはまち、町民のためだというふうに考えております。

○議長（山本浩平君） 5番、松田謙吾議員。

〔5番 松田謙吾君登壇〕

○5番（松田謙吾君） 今ちょっと気になる言葉を町長使ったからいうのですが、白老港を知らない企業があるという言葉がいました。私は全国で港があるのは866です。地方港湾は760何ぼか770ある。北海道は36港湾あって12の重要港湾、地方港湾23あるのです。いっぱい港あるからこの港を知らないのは当たり前なのです。しかも130年の歴史の室蘭の自然港湾、それから苫小牧の1億トン取り扱っている重要港湾があって白老の港湾は知らないのは当たり前なのです。つくった理由が日本製紙の企業のためにつくったのですから知らないのは当たり前なのです。先ほどもいったけどこれから人口が減少して、そしてさまざまな生産が少なくなっているときに、後志エリアから農産物もという話もあったのですがそんなものこれから

あるはずがないとは思っているのです。ですから私は白老の港をいくら北海道に広げようとしても苫小牧と室蘭の陰に薄れて、そんなに目にとまる港にはならない。目にとまるのは借金だけです。私はそう思っているのです。それでも町長、今町長いったことがそのとおりになると思っっていますか。

○議長（山本浩平君） 戸田町長。

○町長（戸田安彦君） 私たちの仕事はこの港湾を利用させていただくというところに全力投球するものですから、なるというふうに信じて行動するということです。

○議長（山本浩平君） 以上をもちまして、5番、松田謙吾議員の一般質問を終了いたします。